

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士(昼間部)		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床医学総論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	酒 井 寛	実務経験とその関連資格	医学博士。国立循環器病センター病院、国立病院機構(大阪、京都、舞鶴など)に勤務。この間、病院付属の看護助産学校、リハビリテーション学院の講師、大阪大学医学部保健学科臨床教授、国際協力事業団専門家 など。			
《授業科目における学習内容》						
臨床工学技士が現場で遭遇する疾患について病態、症状、所見、治療など基本的な内容について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
中間試験と期末試験にて記述試験をおこなう。その平均点評価:70% 出席評価:20%。レポート提出状況など平常評価:10%。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:臨床工学講座 臨床医学総論 参考書:目でみるからだのメカニズム、臨床工学技士標準テキスト、検査データ活用マニュアル、コメディカルのための内科学						
《授業外における学習方法》						
今回の授業内容を把握するため、事前に教科書の内容を確認すること。 配布する演習問題を次回講義までに解いておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床医学総論は範囲が広く、国家試験の出題数も多いため、ポイントを抑えることが大切である。解剖学,生理学,病理学,医用治療機器学との絡みも多く,疾患と関連させて理解すると記憶に残る学習が可能である。各疾患ごとに演習を実施し、理解力を確認する。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	内分泌疾患の概論、下垂体の機能亢進症と機能低下症を説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	下垂体腺腫、巨人症、末端肥大症、下垂体機能低下症、シーハン症候群、尿崩症			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	甲状腺の機能亢進症と機能低下症を説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	バセドウ病、亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎、橋本病、甲状腺腫瘍			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	副甲状腺の機能亢進症と機能低下症を説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	原発性/腎性副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	副腎皮質と副腎髄質の機能亢進症と機能低下症を説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	クッシング症候群、原発性/続発性/偽性アルドステロン症、アジソン病、褐色細胞腫			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	糖尿病の分類、症状、診断などを説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	インスリン、1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、ヘモグロビンA1c、グルコース負荷試験			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	糖尿病の治療、合併症などを説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	糖尿病の治療薬、急性合併症、慢性合併症、糖尿病の予防		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	糖尿病以外の代謝疾患(脂質異常症、肥満症、高尿酸血症など)を説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	脂質の分画、脂質異常症、Body mass Index、肥満と合併症、痛風		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	糖尿病以外の代謝疾患(骨粗鬆症、ビタミン、アミノ酸、脂質、糖質など)を説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	骨代謝、骨粗鬆症、ビタミン欠乏疾患、アミノ酸代謝異常疾患、脂質代謝異常疾患、糖質代謝異常疾患		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	腎臓の解剖と生理を理解する。慢性腎臓病、ネフローゼ症候群の病態を説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	慢性腎臓病、ネフローゼ症候群、慢性糸球体腎炎		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	急性腎不全の分類と病態、その他の腎疾患を説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	腎前性/腎性/腎後性腎不全、急性尿細管壊死、尿毒症、溶血性尿毒症症候群		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	外科手術が必要な腎疾患について、手術方法、合併症と対策を説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	腎細胞癌、腎結石、腎結核、動静脈瘻造設術		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	外科手術が必要な腎疾患について、手術方法、合併症と対策を説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	CAPDカテーテル植え込み術、手根管症候群、腎疾患と透析、腎癌、腎移植について説明できる。		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	尿路感染症、腎硬化症、腎癌について説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	腎盂腎炎、膀胱炎、良性/悪性腎硬化症、腎細胞癌、Wilms腫瘍		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	腎盂・尿管の腫瘍、尿路結石症などの泌尿器病学について説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	腎盂・尿管癌、膀胱腫瘍、前立腺癌、尿路結石症、尿路の先天性異常、男性更年期		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの重要項目について説明できる。		
		各コマにおける授業予定	これまでのまとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士(昼間部)		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床医学総論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	酒 井 寛	実務経験とその関連資格	医学博士。国立循環器病センター病院、国立病院機構(大阪、京都、舞鶴など)に勤務。この間、病院付属の看護助産学校、リハビリテーション学院の講師、大阪大学医学部保健学科臨床教授、国際協力事業団専門家 など。			
《授業科目における学習内容》						
臨床工学技士が現場で遭遇する疾患について病態、症状、所見、治療など基本的な内容について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
中間試験と期末試験にて記述試験をおこなう。その平均点評価:70% 出席評価:20%。レポート提出状況など平常評価:10%。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:臨床工学講座 臨床医学総論 参考書:目でみるからだのメカニズム、臨床工学技士標準テキスト、検査データ活用マニュアル、コメディカルのための内科学						
《授業外における学習方法》						
今回の授業内容を把握するため、事前に教科書の内容を確認すること。 配布する演習問題を次回講義までに解いておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床医学総論は範囲が広く、国家試験の出題数も多いため、ポイントを抑えることが大切である。解剖学,生理学,病理学,医用治療機器学との絡みも多く,疾患と関連させて理解すると記憶に残る学習が可能である。各疾患ごとに演習を実施し、理解力を確認する。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	食道疾患について腫瘍性疾患、炎症性疾患などを説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	食道癌、逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニア、マロリー・ワイス症候群、食道アカラシア、食道静脈瘤			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胃・十二指腸疾患について腫瘍性疾患、炎症性疾患などを説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	胃癌、急性胃粘膜病変、胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	小腸疾患について腫瘍性疾患、炎症性疾患などを説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	血管奇形、メッケル憩室、上腸間膜動脈閉鎖症、偽膜性腸炎、イレウス			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	大腸疾患について腫瘍性疾患、炎症性疾患などを説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	大腸ポリープ、大腸癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、大腸憩室炎、虚血性大腸炎、過敏性腸症候群			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	肝疾患について説明できる。		臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	急性肝炎、A-E型肝炎、劇症肝炎、アルコール性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝癌			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	胆嚢疾患、膵疾患の腫瘍性疾患、炎症性疾患などを説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	胆嚢・胆管結石、急性膵炎、慢性膵炎、胆嚢癌、胆管癌、膵癌			
第22回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	造血器の構造と機能を理解し、血液疾患の主要徴候を説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	造血組織の構造、骨髄の造血機構、血球の形態と機能、リンパ節の構造と機能、胸腺の構造と機能、脾臓の構造と機能			
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	貧血の種類と発生机序、多血症を説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血、赤芽球癆、溶血性貧血、多血症			
第24回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	白血球の疾患および白血球の増減疾患について説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	白血病、成人T細胞白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄線維症、白血球減少症、白血球増多症、造血幹細胞移植			
第25回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	白血球の疾患について説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	急性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病			
第26回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	白血球の疾患および白血球の増減疾患について説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	成人T細胞白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄線維症、白血球減少症、白血球増多症、造血幹細胞移植			
第27回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	止血機序の要因を理解し、血液凝固異常症の主要な疾患について説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	血管異常、特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、血友病、von Willebrand病、DIC			
第28回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	代表的な神経疾患について説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍、アルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病			
第29回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	代表的な末梢神経疾患、筋疾患について説明できる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	多発性硬化症、ギランバレー症候群、進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症			
第30回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの重要項目について説明できる。		
	各コマにおける授業予定	これまでのまとめ			